

話^わじやれ (22)

岐久 ようこ

星にも寿命があつて

いつかは爆発したり

冷え込んで縮小したりして

星も息絶えるとき

宇宙にカケラをまき散らす

そのカケラは長い間かかって

色々な物を造るタネになる

人の体にある鉄分とか骨のカルシウム

「そんな物までとは？」

「星があるから自分がいるんだ！」

星はお互い重力で結びつきあい

バラバラにはならぬ

この先も広がり続けるようだ

普通なら

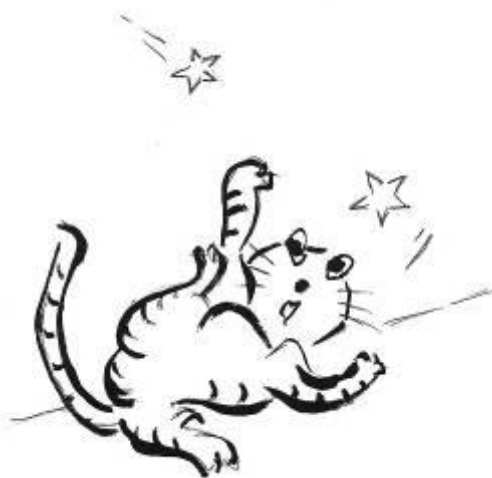
「始まりがあるから終わりもある」

ものだけどネ

「ミミちゃん、何くわえてるの？」

恐竜時代のカケラだよ」
どこから拾ってきたかな
骨なら何でもカブリつき
食べ物と思うようだ

星とまた ジャレあっている 物干し場
永久に つかめぬ物と 教えよう



村をデフォルメ

雲は流れ

山あいの中山間地

アサギマダラが南下しながら

大きマナコで見下ろす

「放棄地が増えるばかりじゃ」

そこへ願ってもない「農業特区」

新規参入者などに規制緩和する

税制上の優遇措置

「耕地さ、ストックしてたんじゃ

有効に使ってもらわなきゃ」

兵庫県養父市では5年間やって6社が土地を

取得し、地元と企業が共に

「良い、良か」

ところが、まあ

「農業の6次産業化」

ロクという字がいけなかったかな

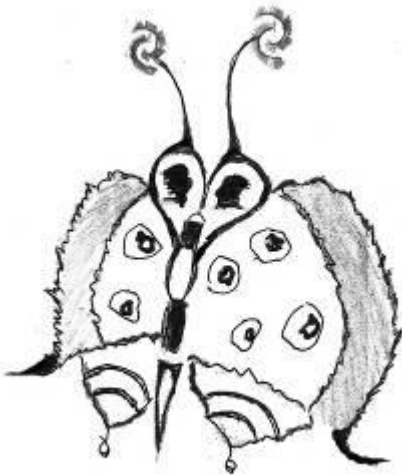
ロクにそこから進まない

一旦中止 なぜか？

縄文時から今日まで絶やさず

耕してきた根付人の声

ジャングルを 切り開いて きたからには
今さら ショートバージョンには できない



おちよやんも乗った

発車時刻のベルが鳴ると

聞きなれた歌

『あの鐘をならすのはアナタ』のメロディ

「ドアが閉まります」

「ご注意ください」

そんなホームにイメージ・ソングが

流れてくる天王寺駅

ああ、聖徳太子がお創りの

「四天王寺」が近くにあるから

「ここがどんな街やったかな」

『やっぱ、好きやねん』

大阪らしさを歌った曲が

耳新しさを歌っています

ぐるっと環状線

「エエッ大阪でドボルザーク？」

あの名曲の『新世界』

通天閣の辺りということですね

「新世界という曲は知らんけどな」
覚えなはれ

長いこと 大阪の街は 変わらへん
都構想 流れる歌も なかったで



出張ボール

林に入りそうや
池におちるかな
ハラハラ、どきどきする
劇的な優勝戦

ピンチから一転

逆にバーディを奪った

勝つということは真に運も必要かと

一打差で勝つというミクロの差

松山選手の精神力ですか

このコース

何度やっても最後まで難関

練習どっさり重ねるも新たな発見求め

今年初めてコーチを付けました

「似てるんですけど」

「気づいた面もあって」

高いレベルを求めて孤高の戦い

ちよっと見直す

小さな穴ばかり見つめないで
編みカゴへどうぞ

どこへ飛ぶ 池や林に 出張ボール
マスターズ 空の青さが 眩しすぎ

